



2022年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年4月8日
東

上場会社名 株式会社メディア工房 上場取引所
 コード番号 3815 URL <http://www.mkb.ne.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長沢 一男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 長沢 和宙 (TEL) 03-5549-1804
 四半期報告書提出予定日 2022年4月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年8月期第2四半期の連結業績(2021年9月1日~2022年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年8月期第2四半期	1,130	26.2	120	—	113	—	93	—
2021年8月期第2四半期	895	△0.7	8	△4.5	6	47.2	6	—

(注) 包括利益 2022年8月期第2四半期 94百万円(846.8%) 2021年8月期第2四半期 9百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年8月期第2四半期	9.31	—
2021年8月期第2四半期	0.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年8月期第2四半期	2,695	1,295	48.1
2021年8月期	3,119	1,200	38.5

(参考) 自己資本 2022年8月期第2四半期 1,295百万円 2021年8月期 1,200百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年8月期	—	0.00	—	—	—
2022年8月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年8月期の連結業績予想(2021年9月1日~2022年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,350	21.8	90	89.1	80	106.0	50	595.8	4.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2022年8月期の通期業績見通しは、各事業の見通しに基づき予測する数値となっております。各事業の進捗並びに業績に与える影響を精査の上、当該連結業績予想に変更が生じた際は、速やかに訂正・開示いたします。



※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 - ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年8月期2Q	11,300,000株	2021年8月期	11,300,000株
② 期末自己株式数	2022年8月期2Q	1,221,077株	2021年8月期	1,221,077株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年8月期2Q	10,078,923株	2021年8月期2Q	10,078,923株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載される業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提条件に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績のご利用に当たっての注意事項等に関しては、添付資料「1. 経営成績・財務状態に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の沈静化傾向を背景に一時的には緩やかな回復基調に転じておりましたが、オミクロン変異株の出現と感染急拡大を背景に、景況感は一気に下落しました。また、ロシアによるウクライナ侵攻をはじめとする地政学的リスクの高まりを受け、世界的に先行き不透明な状況が続いております。

このような情勢の中、当社グループは、デジタルコンテンツ事業における既存コンテンツの運用強化及びSNS事業の立ち上げを推進してまいりました。その結果、当第2四半期連結累計期間においては、既存事業（デジタルコンテンツ事業及びOne to One事業）の売上が増加しております。各事業における取組等については、セグメントごとの経営成績をご参照ください。また、営業利益においては、売上増に伴う利益増の他、前連結会計年度におけるインバウンド・アウトバウンド事業からの撤退（事業の選択と集中）及びXR事業（旧セグメント名称：XR/SNS事業）に係る資産の減損損失計上により前年同期比で大幅に増加しております。

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,130百万円（前年同期比26.2%増）、営業利益120百万円（前年同期比1,391.3%増）、経常利益113百万円（前年同期比1,733.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益93百万円（前年同期比1,410.4%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、以下のとおりであります。なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しております。そのため、当第2四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。詳細は、下記及び「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）セグメント情報」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

① デジタルコンテンツ事業

デジタルコンテンツ事業においては、自社Webサイト、ISP、各移動体通信事業者及びApple や Google 等のプラットフォーム向けに占い鑑定や女性に向けた記事コンテンツを企画・制作・配信する、1対N向けのサービスを行っております。当第2四半期連結累計期間においては、ISP各社における占いコンテンツの配信縮小方針の決定という、収益の減少要因が発生いたしました。また、コンテンツ運用強化に注力した結果、コンテンツのライフサイクルが長期化し、売上高は前年同期比で増加いたしました。また、営業利益については、売上増に伴う利益増の他、人員減に伴う労務費の減少により、前年同期比で大幅に増加しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるデジタルコンテンツ事業の売上高は712百万円（前年同期比30.0%増）、営業利益284百万円（前年同期比56.5%増）となりました。

② One to One 事業

One to One 事業においては、ユーザーと占い師をはじめとするキャストを電話等で直接結び付ける、双方向のやり取りを特徴とした1対1向けのサービスを行っており、サービスの内容は「占い」と「非占い」の二つに分類されております。当第2四半期連結累計期間においても、引き続き占いサービスが安定的に成長し、売上・利益ともに前年同期比で増加いたしました。なお、営業利益については、広告宣伝時期の見直しにより一時的に広告費を抑制したため、前年同期比で大幅に増加しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるOne to One 事業の売上高は406百万円（前年同期比19.0%増）、営業利益59百万円（前年同期比62.4%増）となりました。

③ XR 事業

XR 事業においては、自社独自開発のリアルタイム実写立体動画撮影技術「SUPERTRACK」を活用した撮影サービス、コンテンツ制作の受託の他、他企業とのIPアライアンス等を推進しております。当第2四半期連結累計期間においては、受託案件の獲得に至らず営業損失を計上しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるXR事業の売上高は0百万円（前年同期は売上高0百万円）、営業損失6百万円（前年同期は営業損失31百万円）となりました。

④ SNS 事業

SNS 事業においては、ソーシャルプラットフォームの運営及びサービス企画を行っております。当第2四半期

連結累計期間においては、BtoB向けに提供する当該プラットフォームのシステム利用料を売上として計上しております。一方、利益面については、新規SNSサービス2本の開発費用の先行により、営業損失を計上しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるSNS事業の売上高は8百万円(前年同期比363.6%増)、営業損失63百万円(前年同期は営業損失7百万円)となりました。

なお、新規SNSサービスはいずれも期中のリリースを予定しております。

⑤ その他

当社グループは、2020年8月期にほぼ全てのゲームコンテンツ事業について減損損失を計上し、当該事業について実質的に撤退しておりますが、一部コンテンツについては運営を継続しております。また、2021年8月期においては、越境eコマース及び医療ツーリズム事業を中心とする、インバウンド・アウトバウンド事業から撤退しておりますが、2022年8月期においては一部物販について売上を計上しております。当第2四半期連結累計期間において発生したこれらの撤退事業に関連する取引の売上については、一括して「その他」セグメントとして区分し、計上しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるその他の売上高は2百万円(前年同期比33.4%減)、営業損失4百万円(前年同期は営業損失28百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の当社グループの財政状況は以下のとおりです。

なお、資本の財源及び資金の流動性にかかる情報については、当第2四半期連結累計期間において、重要な変更等はございません。

① 資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比較して424百万円減少し、2,695百万円となりました。

これは主に、現金及び預金の減少346百万円、売掛金の減少48百万円及び無形固定資産の減少33百万円によるものです。

資産の内訳は、流動資産2,424百万円、有形固定資産15百万円、無形固定資産67百万円及び投資その他の資産186百万円となっております。

② 負債の状況

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末と比較して518百万円減少し、1,399百万円となりました。

これは主に、長期借入金の返済525百万円によるものです。

負債の内訳は、流動負債1,027百万円、固定負債372百万円となっております。

③ 純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末と比較して94百万円増加し、1,295百万円となりました。

これは主に、利益剰余金の増加93百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、デジタルコンテンツ事業及びOne to One 事業を中心として安定的かつ長期的な収益を確保すると同時に、今後収益の拡大が見込めない事業分野からは撤退し、成長事業に積極的かつ継続的な投資を行うことで新たな収益の柱を育成し経営の多角化を推進いたします。

また、財務面に関しましては、これまで同様、資産の透明性を確保し、新規事業への挑戦を安定した内部留保によって下支えする健全な経営を行う考えであります。

なお、各事業別の見通し及び2022年8月期の通期業績見通しにつきましては、2021年10月8日の「2021年8月期決算短信」で公表しました通期業績予想に変更はありません。これらの数値は、上記各事業の見通しに基づき予測する数値となっております。従って、新規事業の進捗に変更がある場合、利用ユーザー数が大幅に見込みを上回る若しくは下回る場合又は当社グループ事業に関連する法令が改正されあるいは情勢が変化した場合、変動する可能性があります。

また、新型コロナウイルスについては、いまだその感染拡大が続いており、当社事業に限らず今後の影響は不透明であると判断せざるを得ません。各事業の進捗並びに業績に与える影響を精査の上、当該連結業績予想に変更が生じた際は、速やかに訂正・開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,408,430	2,061,517
売掛金	362,235	313,489
商品	245	232
仕掛品	12,158	10,883
貯蔵品	335	331
その他	38,020	39,559
貸倒引当金	△1,353	△1,122
流動資産合計	2,820,071	2,424,891
固定資産		
有形固定資産	17,940	15,302
無形固定資産	100,963	67,942
投資その他の資産		
敷金及び保証金	101,410	101,110
その他	79,634	86,102
貸倒引当金	△235	△235
投資その他の資産合計	180,809	186,976
固定資産合計	299,712	270,222
資産合計	3,119,784	2,695,113
負債の部		
流動負債		
買掛金	64,881	59,539
1年内返済予定の長期借入金	928,982	752,518
未払費用	49,981	45,286
未払法人税等	15,938	32,683
未払消費税等	28,950	20,972
その他	108,485	116,701
流動負債合計	1,197,220	1,027,700
固定負債		
長期借入金	721,592	372,208
固定負債合計	721,592	372,208
負債合計	1,918,812	1,399,908

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	451,459	451,459
資本剰余金	422,578	422,578
利益剰余金	842,715	936,549
自己株式	△514,204	△514,204
株主資本合計	1,202,549	1,296,383
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△1,576	△1,178
その他の包括利益累計額合計	△1,576	△1,178
純資産合計	1,200,972	1,295,205
負債純資産合計	3,119,784	2,695,113

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2021年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)
売上高	895,366	1,130,175
売上原価	481,622	554,390
売上総利益	413,744	575,785
販売費及び一般管理費	405,692	455,706
営業利益	8,051	120,078
営業外収益		
受取利息	19	13
補助金収入	4,000	-
その他	702	23
営業外収益合計	4,721	37
営業外費用		
支払利息	5,997	6,268
その他	589	416
営業外費用合計	6,586	6,685
経常利益	6,187	113,430
特別損失		
在外子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩損	3,323	-
特別損失合計	3,323	-
税金等調整前四半期純利益	2,864	113,430
法人税、住民税及び事業税	1,744	26,118
法人税等調整額	△5,093	△6,521
法人税等合計	△3,348	19,596
四半期純利益	6,212	93,833
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,212	93,833

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2021年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)
四半期純利益	6,212	93,833
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	3,740	398
その他の包括利益合計	3,740	398
四半期包括利益	9,952	94,232
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,952	94,232

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2021年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,864	113,430
減価償却費	51,535	39,222
貸倒引当金の増減額(△は減少)	383	△230
受取利息	△19	△13
支払利息	5,997	6,268
補助金収入	△4,000	-
在外子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩損	3,323	-
売上債権の増減額(△は増加)	23,211	48,745
棚卸資産の増減額(△は増加)	△2,837	1,291
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,328	△5,342
未払金の増減額(△は減少)	△6,549	13,107
未払費用の増減額(△は減少)	9,557	△4,729
未払消費税等の増減額(△は減少)	7,775	△7,518
その他	2,552	△546
小計	92,465	203,684
利息及び配当金の受取額	19	13
利息の支払額	△5,312	△5,181
補助金収入の受取額	4,000	-
法人税等の支払額	△724	△9,166
法人税等の還付額	6,059	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	96,507	189,350
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,555	△1,466
無形固定資産の取得による支出	△53,812	△9,322
その他	-	300
投資活動によるキャッシュ・フロー	△55,368	△10,488
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△464,561	△525,848
財務活動によるキャッシュ・フロー	△464,561	△525,848
現金及び現金同等物に係る換算差額	103	73
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△423,317	△346,912
現金及び現金同等物の期首残高	2,500,968	2,408,430
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,077,650	2,061,517

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(「収益認識に関する会計基準」等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年9月1日 至 2021年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	デジタル コンテンツ 事業	One to One 事業	XR 事業	SNS 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	548,124	341,340	11	1,802	891,278	4,088	895,366	—	895,366
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	548,124	341,340	11	1,802	891,278	4,088	895,366	—	895,366
セグメント利益又は セグメント損失(△)	182,070	36,819	△31,094	△7,629	180,165	△28,319	151,846	△143,794	8,051

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゲーム事業、医療ツーリズム事業及び越境eコマース事業などを含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△143,794千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用143,794千円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	デジタル コンテンツ 事業	One to One 事業	XR 事業	SNS 事業	計				
売上高									
顧客との契約から 生じる収益	712,769	406,312	10	8,358	1,127,451	2,724	1,130,175	—	1,130,175
外部顧客への売上 高	712,769	406,312	10	8,358	1,127,451	2,724	1,130,175	—	1,130,175
セグメント間の 内部売上高又は振 替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	712,769	406,312	10	8,358	1,127,451	2,724	1,130,175	—	1,130,175
セグメント利益又は セグメント損失(△)	284,856	59,797	△6,865	△63,847	273,941	△4,837	269,103	△149,024	120,078

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゲーム事業などを含んでおり
ます。
2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△149,024千円には、各報告セグメントに配分していない
全社費用149,024千円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、リアルタイム実写立体動画撮影技術を活用したサービスの企画・制作並びに多機能コミュニケーションプ
ラットフォームの開発・運営及びサービス支援を「XR/SNS事業」として区分しておりましたが、各々の事業の戦略
上の重要性が増したため第1四半期連結会計期間より「XR事業」及び「SNS事業」として区分する方法に変更して
おります。上記変更により、当社グループの報告セグメントを、「デジタルコンテンツ事業」「One to One事業」
「XR事業」「SNS事業」の4セグメントとしております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成し
たものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであり
ます。

(重要な後発事象)

(多額な資金の借入)

当社は、以下のとおり借入れを行っております。

- (1) 用途
長期運転資金
- (2) 借入先の名称
株式会社三井住友銀行ほか3金融機関
- (3) 借入金額
800,000千円(内752,518千円は1年内の借入返済分であります。)
- (4) 借入条件
市場金利等を参考にして決定されております。
- (5) 借入実行日
2022年3月24日及び2022年3月31日
- (6) 借入期間
3年
- (7) 担保提供資産又は保証の内容
無